



## IDF PRESS RELEASE

Brussels/Rome, 25 February 2019

### IDFプレスリリース

2019年2月25日、ブリュッセル/ローマ発

#### IDF事務総長、FAO畜産環境評価成績パートナーシップに委員長に指名される

#### **IDF'S DG NAMED 2019 CHAIR OF THE FAO LIVESTOCK ENVIRONMENTAL ASSESSMENT AND PERFORMANCE PARTNERSHIP**

FAO畜産環境評価成績パートナーシップ（LEAP）は本日、第22回運営委員会において、国際酪農連盟のキャロライン・エモンド事務総長が2019年度委員長に就任すると発表した。

「キャロライン・エモンド氏がLEAPの新しい委員長に就任されることを大変喜ばしく思います。」とLEAPマネージャーCamillo De Camillis氏は語った。「畜産業のサプライチェーンが経済的な活力と社会的な活力を保持しつつ、LEAPが今後、その環境成績を評価するという重要な仕事を継続する上でIDFを率いるエモンド氏の経験とIDFのグローバルな専門性は貴重に力になります。」

「全畜産業を通じて持続可能性を高めるパートナーシップ、LEAPの新しい委員長を奉じることになり誠に光栄です。」とキャロライン・エモンドIDF事務総長は語った。

「畜産業の環境的成績をベンチマーキングし注視するLEAPにより、私たちは既に偉大な進歩を遂げました。2019年にはそれ以上の達成を期待したいです。」

LEAPは、FAOが主催者となって各国政府、NGOおよび民間部門のメンバーから成る多重的な利害関係者の取り組みです。畜産業のサプライチェーンについてその環境

成績を注視する総括的なガイダンスと手法を開発する。2012年7月以来、酪農乳業はIDFが窓口となりLEAPに参加、持続可能性の取組では重要な役割を演じてきた。

特に、IDFはLEAPの3つの取組で大きな役割を果たした。LEAP1ではおもに畜産業（飼料、小さい反芻動物、大型反芻動物、養鶏、養豚）のサプライチェーンから排出される温室効果ガスの定量化に対する会計規則の調和（ハーモニゼーション）に照準を当てた。LEAP2では、土壌炭素蓄積変化ガイドライン、栄養素サイクルガイドライン、ウォーター・フットプリント・ガイドライン、生物学的多様性ガイドラインおよび飼料添加物または変化指向アプローチガイドラインの開発に照準を当てた。LEAP3ではLEAPガイドラインの路上実技試験、これらのガイドラインの開発、改訂および普及に照準を定める。

IDF国内員会の惜しみないサポートのお蔭で、IDFはLEAP運営委員会の一翼を担っている。

完

翻訳：JIDF事務局

编者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。